独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立那須甲子青少年自然の家

令和８年度教育事業報告書

事業名	あつまっぺ！なすかしの森
期日	１回目：令和８年８月 15 日㈯～18 日㈫ ２回目：令和８年９月 19 日㈯～21 日㈪
会場	国立那須甲子青少年自然の家（福島県西白河郡西郷村大字真船字村火６－１）
対象	小学３年生から６年生
参加者数	１回目：21 人　　２回目：17 人
趣旨	小学３年生から６年生までの子供を対象に、那須甲子地域の豊かな自然環境の中で多様な自然体験を実施し、自然との共生や環境保全について考える契機とする。

事業内容及び成果と課題

日光国立公園内に広がる「なすかしの森」を舞台に、子供たちが自然の中で様々な体験活動に挑戦する事業を実施した。本事業では、「ひみつ基地づくり」「たき火・薪割り・野外炊事」「木工クラフト」「デジタルなすかしクエスト」「ナイトハイキング」「ライトトラップ」「キャンプファイヤー」「魚釣り大会」など、子供たちが「やってみたい」と思う多様なプログラムを実施した。また、那須平成の森フィールドセンターの協力によるプログラム体験を取り入れたり、60 年間熊撃ちをしている猟師から「熊撃ちの話」を聞いたりすることで、専門的な自然体験や環境学習にも触れる機会を設けた。

参加者は福島県内に加え、東京都、千葉県、茨城県など広範囲から集まった。普段の生活では自然に触れる機会が少ない子供たちだけでなく、身近に自然がある子供たちにとっても、森や自然の新たな魅力や気付きを得る機会となるとともに、本事業の趣旨である「自然との共生や環境保全について考える」きっかけを提供することができたと考える。多様な自然体験プログラムを組み合わせることで、参加者の興味・関心を引き出し、参加者満足度は 97％と満足度の高い事業を実施することができた。本事業は「体験の風をおこそう運動」の一環として実施した。子供たちが普段の生活では味わうことのできない様々な体験に挑戦し、自然の中で仲間と協力しながら活動することによって、「体験の風をおこす」ことにつながったと考える。参加者からは「もっと自然や生き物を大切にしたい」「ゴミのポイ捨てをしない」といった声も聞かれ、体験活動を通して自然への興味・関心を高めただけでなく、自然環境の大切さや、自然と人との関わりについて考える機会にもなった。

本事業の課題は、より多くの子供たちに、より豊かな体験の機会を提供し、自然体験の魅力や重要性を普及・啓発していくことである。単に自然の中で遊ぶだけではなく、体験を通して自然環境について考えたり、日常生活での行動につなげたりすることができる、体験と学びを組み合わせたプログラムの充実を図っていきたい。

事業の様子



ひみつ基地づくり



魚釣り大会



那須平成の森フィールドセンター
プログラム体験